

佐渡市精神保健福祉対策の目指すところ（令和5年度まで）

「佐渡市自立支援協議会精神障がい部会」における協議内容に基づき事務局にて作成（R4.2.14）

【相談支援】

- 相談しやすい環境づくり。相談のハードルが下がる。
- 相談支援専門員が増え、相談支援事業所が選べるといい。
- 障害者に関わる人が増えるといい（ボランティア等）。
- 障害や年齢に関係なく、包括的にコーディネートできる人がいるといい。

→取組の方向性

- 相談先の周知
- 相談支援事業所を選択できるように体制整備を検討
- 高齢分野と障害分野の連携推進

【生活支援】

- 本人の能力を活かす支援。
- つながり強化。
- 障害理解のあるヘルパー配置。
- お金について学ぶ場やきっかけがあるといい。

→取組の方向性

- ヘルパーの資質向上（研修企画）
- 「金銭管理フローチャート」の作成

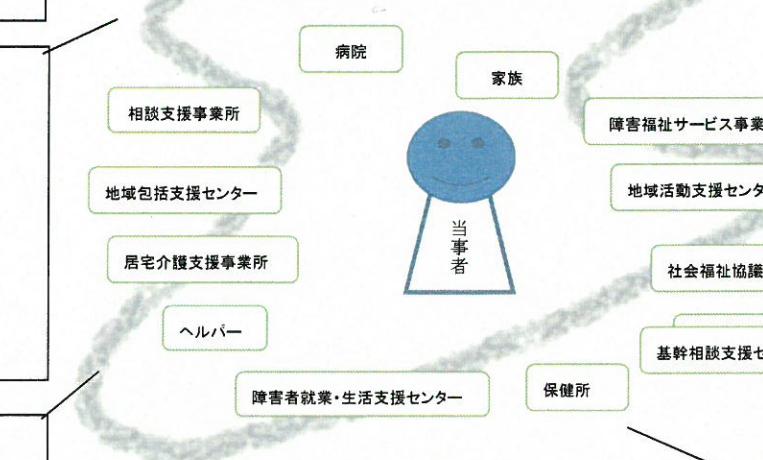
【医療】

- 真野みづほ病院が佐渡総合病院に統合されても、これまでどおり必要な医療が受けられる。
- デイケア、訪問看護の充実。

目指すべきゴール 一人ひとりが自分らしい人生を歩む ～しあわせプランの実現～

＜目標＞

- ①自分で選び、自分で決める。
- ②困ったときに「助けて」と言える「人」がいる、「場」がある。
- ③地域とのつながりを持ち、自分の役割を持つて。
- ④人との関係の中で生活の楽しみを持つて。
- ⑤みんなで支えあい、認め合える。



【入院中の精神障害者の地域移行に関する事業】

- 長期入院患者が退院し、地域で暮らせるようになる。
- 「真野みづほ病院と地域機関の連絡会」等を活用した連携強化。

【住まい】

- 保証人の問題
- 持ち家の老朽化、管理の問題
- さまざまな形態のグループホームがあるといい。

【社会参加・就労】

- 地域活動支援センターが各地にできるといい。
- 障害者雇用ができる事業所が増えるといい。

→取組の方向性

- 当事者の居場所づくり

【地域の助け合い・教育（普及啓発）】

- 地域で障害を理解する環境が整う。
- 福祉教育の充実。
- 家族や当事者が会って話せる場が増えるといい。

→取組の方向性

- 普及啓発（障害理解のためのパンフレット製作または購入・配布）
- ボランティアの育成

【保健・予防】

- セルフケアする力を身につけていく。
- 生きづらさを抱えた人たちが二次障害を受けないようにできるといい。

【ピアサポート】

- 当事者が活躍できる場が増える。
- ピアサポート活動に関心のある当事者が増える。
- 「しゃべってみんかっちゃん（家族会）」が継続される。

【体制整備（市町村ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場）】

- 「佐渡市自立支援協議会精神障がい部会」において、施策全体の方向性や関係機関の役割を明確にする。

令和3～5年度末までの行動計画（令和3年7月30日令和3年度第1回精神障がい部会 グループワークの結果から事務局にて作成）（案）

項目	取り組みの方向性	令和3年度	令和4年度	令和5年度
相談支援	①相談機関の周知 ②高齢分野と障害分野の連携推進	①PRちらしの検討 ②研修会の開催 ・地域振興局主催の研修会	①PRちらしの作成・配布 ②相談支援体制の検討 ②研修会の開催	①PRちらしの評価・見直し ②相談支援体制の検討 ②研修会の開催
生活支援	①ヘルパーの資質向上 ②金銭管理シート（仮）の作成	①現状把握 ・当事者、ヘルパーの声を聞く（アンケート） ・ヘルパー事務局に現状を確認 ・研修会の企画	①ヘルパー向け研修会の開催	
		②権利擁護部会にて検討	②権利擁護部会にて検討 ・シートの作成、配布	②権利擁護部会にて検討 ・シートの活用促進
住まい	①グループホームの利便性向上	①現状把握、日中活動の課題を共有。今後、個々のケースに応じて相談していく。		
社会参加・就労	①当事者の居場所づくり	①居場所の企画、試行的な実施、評価	①居場所の実施 ・ボランティアの活用	①地域活動支援センターへの移行を検討
地域の助け合い・教育 (普及啓発)	①ボランティアの育成	①ボランティア育成講座の企画	①ボランティア育成講座の開催 ・居場所での活用	
	②地域への普及啓発		②精神疾患に関するリーフレットを作成（購入）・配布	
	③教育分野への普及啓発		③教育分野との打ち合わせ	